

新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設基本計画策定委員会（第6回）  
議事要録

日時 平成22年8月18日（水）午後6時30分～午後9時25分

場所 クリーンセンター3F 見学者ホール

出席 田村委員長、大江副委員長、安井龍治委員、荒井喜久雄委員、狩野耕一郎委員、  
早川峻委員、高橋健一委員、石黒愛子委員、橋弘之委員、金子和雄委員、新垣俊彦委員、  
上原文夫委員、小酒井恵詞委員、渡部敏夫委員  
事務局（木村浩クリーンセンター所長、和地稔課長補佐他）、アドバイザー（社団法人全  
国都市清掃会議 事務局）、コンサルタント（株式会社日建設計 高津主管他）

欠席 越智征夫委員、佐々木保英委員

傍聴 4名

1. 委員視察報告について

事務局より、8月2日（月）に視察を行った所沢市東部クリーンセンター（以下、所沢）・児玉  
郡市広域市町村圏組合小山川クリーンセンター（以下、小山川）について説明。

- ・ **委員** 小山川の自主規制値について、ダイオキシンは0.1ではないか。
- ・ **事務局** 活性炭設備を設置することで、0.01になる。小山川は設置していないため、0.1である。
- ・ **委員長** 今回の視察において我々は何を参考にすべきであったのか分からない。全体を見ていろいろと参考にするのであろうが、他の委員も含めてご意見いただきたい。
- ・ **事務局** まず、排ガスの規制値を参考にいただきたい。SOx、HClは20ppmの規制値であり、所沢は湿式、小山川は乾式の例として視察を行った。また、同様の規模の施設における運営や改修についても参考にさせていただいたかった。実際の失敗例なども参考にできればと考え、施設を選定した。
- ・ **委員長** 屋上緑化や付帯施設については勉強になった。事務局の意図は理解した。
- ・ **委員** 自動選別機は効率が悪く、現在は運転していないという話であったが、どこまで手選別を実施するのかという検討が必要である。
- ・ **委員** 所沢の煙突高さが90mとなっていたが、10mの窪地に設置されており、実質的には80mという説明であった。また、90mに決定した経緯としては、10m～200mまで幅があり過ぎ、意見を集約することは困難であったために行政側で決定したとのことであった。
- ・ **事務局** 瓶の自動選別を中止したということであるが、色の分別がうまくいかないということと、買い取る際により厳しい精度が求められるようになったことが原因と聞いている。
- ・ **事務局** 瓶を選別する手選別工程は、全国的にも多くで採用されている。一方で、金属を取り出す手選別は非常に稀であり、作業環境面も瓶よりも過酷な状況にある。今回、事務局としては、金属を取り出す工程について自動化したいと考えている。瓶の選別とは、少し状況が異なることをご留意いただきたい。
- ・ **委員** メーカーからの提案としては、瓶は自動選別で十分対応可能ということであったのか。
- ・ **事務局** 世田谷工場に隣接して最新の資源化施設があり、設置後3年程度経っているが、自

動で適切に運用されているとのことである。灰溶融設備についても、適切に運転している施設と中止している施設がある。武蔵野クリーンセンターは、東京たま広域循環資源組合のエコセメント工場を安定的に利用できるということで、非常に有利であると考えている。

- ・ **委員** 所沢を視察した日が、月曜日であったためにリサイクルプラザが休館日であった。使えるものはできるだけ資源化という考えに基づき、民間からも多くのごみが持ち込まれる状況が見られず、残念であった。また、所沢の課長が、ダイオキシン問題で市民から 2000 通を超える意見書を受け取り、それに丁寧な回答したとのことであった。大変なことだと感じた。小山川については、周囲は田畑でありながら、土地収用に難航したという話があり、まだまだクリーンセンターというのは、迷惑施設であるのだなと感じた。そのような意味で、武蔵野クリーンセンターは、先進的な役割を果たしていかなければならないと感じた。
- ・ **委員長** 所沢の担当者の説得力、説明力は素晴らしかった。武蔵野クリーンセンターの事務局からも 10 年後にああいった形で説明できる人が 1 人でも残ればと思っている。
- ・ **副委員長** 所沢は東西にクリーンセンターがあり、東を新しく建設するにあたり、当初は 330t/日程度の処理量であったものを 230t/日程度に減らすことができた。一方で、結果的に行政主導で進めた面も多く、技術面については市民検討会などを実施せずに専門家委員会で迅速に決定していった。そのような点は、市民としては非常に不満があり、武蔵野市のこのような委員会は、新しいコンセンサスの形と感じている。小山川は、武蔵野とは異なり、周辺に住民はほとんど居住していない。クリーンセンターが市民に入ってくる問題ではあまりなかった。また、武蔵野とは異なり、所沢や小山川などの施設では灰溶融の問題が非常に大きなものとなっている。
- ・ **委員** 所沢の住民に話を聞いたところ、所沢ではごみ収集時間帯に間に合わなかった場合のごみの持込を受け付けており、年末など大変混雑すると聞いた。武蔵野においては、どのような運用を行っているのか。
- ・ **事務局** 武蔵野市において、個人の持ち込みは有料袋に入らない粗大ごみに限定している。平日 9:00～11:30、13:00～16:00 まで受け付けているが、粗大ごみ受付センターを通して収集に伺う方法と持ち込みの方法の併用という形をとっている。収集に伺う方法とした場合には、電話を受けてから 1 週間程度で伺えるような体制が必要であると考えており、新施設においては現在の形を継承する方向で考えている。
- ・ **委員** 我々の団地が建て替える際にリヤカーなどで粗大ごみを運んだと記憶している。その際は無料であったが、現在は有料化してしまったために持ち込む人は少なくなったと聞いている。
- ・ **事務局** 所沢は可燃ごみを受け入れているが、武蔵野では粗大ごみのみである。また、委員の例のように大量の持込ごみが想定される場合には、持込時間を限定するなどしているため、渋滞が発生するなどの事態は、少なくともこの数年の間には発生していない。
- ・ **事務局** 資料 P.2 の所沢の規制値のばいじんが 0.01 ではなく「0.02」、窒素酸化物が 50 ではなく「80」であった。訂正を願いたい。

## 2. 焼却施設（排ガス処理方式の設定）の検討

事務局より、焼却施設（排ガス処理方式の設定）の検討について説明を行った。

- ・ **委員長** P.1 で「委員会で確認・決定した事項」と記載があるが、「決定」するのは委員会で

はない。昨年も用地を検討した際に、決定するのは我々ではなく「合意した」というような意味合いと捉えている。形式論ではあるが、このあたりどのように考えているのか。

- ・ **市委員** 最終的に決定するのは、行政であると考えているが、委員会としての基本計画案を策定するという意味では、「決定」でよいのではないか。言葉として誤解があれば、「委員会で確認した事項」などとしても問題ない。
- ・ **委員** 現施設の用地選定の際には、「示唆した」としている。
- ・ **委員** 「委員会での確認事項」としてはどうか。
- ・ **市委員** 市民が誤解することの無いよう表現を考える。
- ・ **委員** P.8,9,12 に記載されている「保障」という言葉について、この文字でよいのか。また、実測値の「ち」の字が誤っている。
- ・ **事務局** 「保障」は、「保証」である。訂正をお願いしたい。また、「値」についても訂正をお願いしたい。
- ・ **委員** 先ほどの「委員会視察報告」も間違いが多かった。あまりに間違いが多い場合には、資料の信憑性が失われる。
- ・ **事務局** 「委員会視察報告」についても再度訂正したい。P.2 発電設備について、「2500kW × 2 基」に訂正いただきたい。また、先ほど訂正をお願いした部分については、訂正は不要である。P.9 の小山川クリーンセンターの排ガス規制値について、ばいじんが「0.02」、NO<sub>x</sub> が「80ppm」、ダイオキシンが「0.1」と訂正いただきたい。
- ・ **委員** 資料の P.11 において、湿式のランニングコストが 20 年間で「0」となっているが、正しいか。水道料金は支払う必要が無いということか。
- ・ **事務局** 記載の表は、全てのランニングコストを比較しているのではなく、洗煙設備に関する項目だけを比較している。あくまで試算ということで、共通の項目については差が無いものとしている。
- ・ **委員** 武蔵野市の水道事業には、非常に危機感を抱いている。意見を求められれば、「乾式」と答えるが、下水道処理に多額の費用が想定される湿式で「0」というのはおかしいと感じた。
- ・ **委員** 湿式は相当の水を使っている。何千万円になるのではないか。
- ・ **事務局** 現状の湿式・白煙防止ありという方式との比較であるため、同じ湿式であれば排水処理の金額に差はない。乾式であれば、ランニングコストで 1.7 億円安くなるという比較をしている。
- ・ **委員** P.5 の乾式処理の重曹と消石灰について、重曹が「65 円/kg」消石灰が「35 円/kg」となっているが、グレードにより異なるものであると思われる。どのように設定したものなのか。
- ・ **委員** 薬品の単価のみに注目すれば、それが高いか安いことになるが、最終処分場までのフロー全体を考えれば、除去率の向上から最終処分場の処理量が削減されるなど必ずしも単純な比較にはならないのではないか。
- ・ **委員** 単価を比較しているが、使用量は同じなのか。
- ・ **事務局** 厳密な比較は、メーカーへのヒアリングが必要であるが、重曹の方が量は少なくなると思われる。それは、最終処分場へ持ち込む量に影響を与えるため、今言われたように全体で考える必要が出てくると考えている。消石灰のグレードは一般的なもので設定している。ただし、消石灰・重曹といった方法は、ある程度メーカーに自由度を持たせるように考えて

いる。重曹を使用する方法は、あるメーカーが特許を持っており、様々な方法が考えられる。

- ・ **委員長** P.10 の総合評価の表にコスト評価が記載されているが、これは全体の金額を記載しており、比較ができるように感じる。しかし、重曹と消石灰の単価は、部分的なものであり、適切な評価ができるものではない。内訳を明示するかグロスできちんと評価するなどの作業が必要である。
- ・ **委員** P.8 に記載の通り、基本的な方向はこの委員会で確認し、次のステップで発注仕様書を作成する。その仕様書に基づき民間事業者が基本設計図を作成し、その中に薬品使用量や残渣の発生量などが試算されてくる。どの薬品を使うかといったような話は、基本設計図の確認の段階で判断するものとなってくる。とりあえず大枠で乾式か湿式かを決めれば、詳細については技術審査の過程で決めていくことになると考えている。日本のごみ処理施設は海外の製品を買ってきて、それを発展させる形をとっており、国内の技術が非常にすくないために、メーカーがそれぞれノウハウを持っている。そのためにメーカーにより方式が異なる。我々が評価するのはごみがきちんと焼却されるか、発電がきちんと行われるかなどであり、消石灰か重曹かといった議論は、部分の話でしかない。
- ・ **事務局** P.10 において、重曹と消石灰のランニングコストの比較を行っている。概算であるが、乾式であればランニングコストの軽減は可能であろうという考えを持っている。
- ・ **委員** 20年間で1.7億円というのは、薬品だけではないのか。
- ・ **事務局** 水、電力、薬品を含めている。
- ・ **委員** 削減できる金額が、20年間にしてはすごく小さく感じる。
- ・ **事務局** 今の炉は3つであるが、新施設は2つとなるため、全体としては減る傾向にある。ただ、装置のメンテナンス費用は大きくかかる。
- ・ **委員** それもランニングコストに含まれるべきではないのか。
- ・ **事務局** ライフサイクルコストに含めている。
- ・ **委員** 私も1.7億円というのは、少ないように感じる。湿式処理に必要な後段の設備のランニングコストも含めてこの金額であるのか。
- ・ **事務局** 排ガス処理、飛灰処理、排水処理の薬品、上水、下水の費用は含んでいるが、規模が小さいので、差が大きくならないと考えている。発電も乾式が優位と言えるが、発電量がそこまで大きくないために金額の大きな差には表れていない。
- ・ **事務局** 電気代等は含まれるが、補修費は含まれていない。水処理設備は、補修費が非常にかかるが、算定が難しいために含まれていない。補修費も含めると、もっと大きなランニングコストの差になると考える。
- ・ **委員長** 薬品代の高い安いは、湿式・乾式を選定するうえでの一つの基準でしかない。意味がないとは言わないが、「コスト論」を議論するには、中身が不十分である。
- ・ **委員** 環境性能がきちんと担保されたうえで、どちらが安いかという判断をするしか、現段階では方法はないと考えている。
- ・ **副委員長** P.10 の総合評価の表に各実績値が記載されているが、実績値の内容が不明である。規制値が10ppmで、実績値が10ppmであれば余裕が無さ過ぎるため、不安を覚える。
- ・ **事務局** 消石灰だけで常時10ppmを下回るというのは難しい。システムを組み合わせるなどしてなんらかの形で10ppmを下回る提案をメーカー側はしてくると思われる。その方法でコストの差が生じてくると考えている。また、実績値としていくつかの自治体のデータを収集

することは可能であり、そういった形での提示になるかと考えている。

- ・ **委員** 10ppm という数字に許容範囲を設けたほうが分かり易いのではないか。
- ・ **事務局** 現在稼働中の施設で、10ppm の規制値で乾式を採用している施設はない。乾式を採用しているところは、ほとんど 20ppm などを規制値として採用しており、規制値を 10ppm とした場合には、実績値はさらに低い値を担保して運転することになる。
- ・ **副委員長** それでは、消石灰を単独で記載しておくのは誤解を与える。
- ・ **委員** 消石灰で規制値 10ppm という施設が存在していない以上は、そこに対応する実績値を記載するのはおかしい。
- ・ **委員** プラントを運転する技術力も規制値には大きな影響を与えてきており、判断が難しい。
- ・ **委員** 10ppm は乾式で達成するのはなかなか難しい。各メーカーの開発により重曹にたどり着いた経緯がある。ふじみ衛生組合の場合には、受注した JFE エンジニアリングは、重曹は他社の技術であるため、スラリーを採用し、10ppm を切るという提案をしている。やはりメーカーに対して規制値 10ppm を保証してもらったうえで、イニシャル・ランニングコストが安い方式を採用するのが現実的である。所沢のダイオキシン対策も活性炭吸着装置を設置しているが、2 段にバグフィルタを設置するという方法も考えられた。しかし、設備を付加することでコストが高くなり、一方で人体に影響のない範囲での値の低下しかなければ、現実的にどちらを選択するかを考える必要がある。
- ・ **委員** 委員会で規制値について、一定の確認をした以上は、その実現が難しい消石灰は排除しなくてはならない。消石灰+ と重曹を比較するというような形で整理して欲しい。
- ・ **委員** 仕様書を書く際には、特定のメーカーさんを指定してしまうような書き方はできない。重曹と書いてしまうと結果的に特定のメーカーを指定してしまい、価格競争が行われなくなってしまう。乾式についても様々な選択肢を残すために、このような比較表を作成していることを理解して欲しい。
- ・ **委員** 我々にはそういったメーカーのことなどの背景は不明である。運用面で全体がフォローできれば問題ないと考えている。
- ・ **委員長** 湿式・乾式の違いは大きなものであり、その選択ははっきりしている。しかし、消石灰か重曹かということに関して、メーカーの影響を受けるということまでは考えていなかった。実際に規制値を下回れるかという話について、どこかで割り切ったうえで、乾式処理においても規制値が守られるとして、判断する必要がある。
- ・ **委員** そういったことを守る方式として、性能発注方式を記載している。
- ・ **副委員長** 乾式のほうがよいと考えていたが、メーカーとの絡みを考えると非常に難しい問題である。規制値 10ppm を大前提としたうえで、メーカーから幅広く提案を求めたうえでないとなかなか判断がつかないと思う。消石灰・重曹についてももう少し幅広いデータ提供を受けたいうえで、判断しなくてはならない。
- ・ **委員長** 比較表の中で、住民への安心感という意味では、「白防あり・湿式方式」である。この安心感の評価が低いものを採用するというのは、やはり明快に比較して説得する必要がある。
- ・ **委員** 委員の方々は、乾式がよいと全員思っていると考えている。ここで、重曹や消石灰を選んでしまうことにより、以後の我々の選択肢を狭めてしまって良いのかということが焦点である。乾式と定めたいうえでメーカーからの提案を受けて、詳細を決定してもよいのでは

ないかと考える。これで、竣工が遅れても問題はないのではないか。

- ・ **事務局** 重曹は1社の技術であるが、他社についてはそこから購入すれば問題ない。川崎市では、荏原製作所がタクマから技術を買って採用しているようである。あまり特許に縛られる必要はないのではないか。
- ・ **委員** 技術使用料をメーカーが支払って、採算が合えば、それで問題ない。乾式と定めようとして、メーカーからの提案を受けて決定すればよいのではないか。
- ・ **副委員長** 湿式は本当に環境に悪いのかというのが疑わしくなっている。例えば発電効率は13.9%と目標14%に少し届かない状況にあるが、本当にそうなのかと疑問を持っている。コストや実績値等についてももう少し背景・根拠を明確にしたうえで、素人にも分かるような数字の提示の仕方をしていただきたい。
- ・ **市委員** 基準値をクリアするのは大前提と考えている。その中で、乾式・湿式を決めるために比較表を提示している。コストを見るうえで、建設費の5億円の差は必須のものであり、薬品の差が曖昧になっている。しかし、一番高い重曹を想定して比較することで、判断の参考にすることはできると考えている。
- ・ **副委員長** コストについて乾式の優位性が揺らいでしまっている。重曹を採用しては価格競争力が失われ、湿式の発電効率についてもあと0.1%向上すれば、補助金を受けられるということである。規制値を担保したうえで、より安い方法を選択する方が分かり易い。乾式の方法まで選択しなくてはならないのであれば、もう少し根拠を明確にしたデータを提示してほしい。
- ・ **事務局** P.10の比較表において、消石灰に「 」を打っており、何かしらプラスが必要であるのは、当初よりお伝えしている。また、重曹についてはふじみ衛生組合の所長とも情報交換を重ねる中で、重曹と特定せずに自由度を持たせたほうがよいと助言をいただいている。湿式の14%については、営業に来るメーカーから、非常に難しい数字であると聞いており、14%に到達するためには、相当なコストがかかるということである。ふじみ衛生組合は、288t/日という一定の規模があるため、10ppmを確保する提案から選択することができたが、武蔵野では120t/日しかないため、発電効率を追求していくのは非常に難しい。湿式については、排ガス処理能力が優れているという点で選択するかしないかである。ただし、発電効率を考慮すると、非常に不利という想定で乾式・湿式の方向性を出していただきたい。今後の施設規模・動線計画を検討する中で、乾式か湿式を決めておかないと設定が難しくなる。新施設の敷地はそこまで余裕が無いので、当初より設備を想定しておかないと後で入らないという事態に陥る可能性がある。
- ・ **委員長** 個人的には乾式に傾きつつあるが、湿式にも優位な点はいくつかあり、排ガス処理性能という点では湿式の方が優位ということである。乾式でも問題ないと説明すればよいと考えるが、その他の評価項目に揺らぎが多い場合には、結局安全・安心の部分に戻らざるを得ない。我々が推薦して問題ないというものをきちんと示していただきたい。話を聞いていると、建築面積が大きな決定要因のように聞こえる。乾式を選ぶということであれば、マイナスな点はできる限りなくしていきたい。乾式を積極的に推薦するには、穴が多すぎると感じる。
- ・ **委員** 排ガス規制値を設定しているが、それが守られるかが問題になる。乾式でも湿式でもとりあえず達成が可能な数値を設定している。達成したうえで、乾式が有利であるという

大まかな論理の構築はできていると考えている。細かいところは、今後精査していくということが現段階では適切と考える。

- ・ **委員長** P.11 の表において、湿式と乾式で排ガス処理性能の評価が湿式の方が高くなっている。この差が不要であり、基準値を守れるのであれば、どちらも同じ評価であると考えている。
- ・ **副委員長** あえて湿式と言うつもりはないが、湿式の方が排ガス処理性能の評価が高く、コストなどその他の点でそこまで大きな差がないのであれば、湿式でいけない理由がなくなってしまう。排ガス規制値を十分意味づけした上で、乾式の方が優れている点を提案いただきたい。
- ・ **委員** 周辺住民向けの黄色いニュースを発行したが、その裏面で乾式について説明をしている。やはり、我々はまず安全安心が第1であり、また、今の時代に地球に優しくない施設はダメと考えている。そこを踏まえると乾式になるであろうと、ニュースにも乾式の内容しか記載していない。現施設を作る際には、右肩上がりの時代であり、お金がかかっても周辺住民にとって最も安全な方法を採用すればよかった。しかし、この先武蔵野市は水の心配も抱えて、排水の処理にも大きな金額をかけている。また、エネルギーを余分に使うこともしたくないし、よりシンプルなシステムで適切な管理をしていただきたい。団地内でも様々な議論をした結果として、乾式にすべきでないかと考えている。そのうえで、規制値について安全が担保されるよう運転監視を進めていけばよいと考える。
- ・ **委員長** 我々は安全と将来を担保できるシステムを市民に提案したいが、その理屈が明確になっていない。項目の多さや複雑さではなく、明快さ・正確さというのを求めていきたい。
- ・ **委員** 乾式を採用すれば、長期スパンで考えれば建設費の半分くらい金額の差が生じる。しかし問題は、実際に 10ppm 以下に抑えることができるのかということであると考えている。実績がなく、ふじみ衛生組合の結果を参考にということでは、市民に説得力がない。逆に規制値を守れるという保証がある重曹を使うと明確に提示した方が早いのではないか。
- ・ **委員** コストがかかっても重曹で規制値が保証されるのであれば、乾式でよいと感じる。
- ・ **事務局** 実績については、きちんとしたデータを提示したい。
- ・ **委員** 排ガス処理性能において、湿式の方が優れているというのは、どの点で優れているのか。規制値以下にできるのであれば、性能としては合格であり、それをどちらが効率的に処理できるかという点で、総合的に乾式を選ぶという流れが必要である。乾式の性能が低いというような評価はよろしくない。また、基準値を満たしていれば、1ppm も 5ppm も同じに扱わなくてはならない。煙突高さにも同様のことが言えて、0.000020 と 0.000007 の差が大きいとすれば、煙突は 200m にも 300m にもなってしまう。基準を満たしていれば良いという数字の比較をしないと意味がない。
- ・ **委員** 安全・安心の優位性を湿式に与えてしまうと、総合的に湿式の方に優位性があるように感じる。私も乾式の方がよいと考えているため、数字の出し方を考えていただきたい。
- ・ **委員** 基準値というのは何なのか。国の基準値は、この数値以下であれば、健康被害を出さなくて済むという基準値であり、それよりも大幅に低い自主規制値を武蔵野では設定している。それをさらに下げて守るということで、住民にも説明ができるため、細かい数字は不要ではないか。
- ・ **委員長** 基準値は、基本に置いて考えなければならない。
- ・ **委員** 5ppm と 1ppm が同じ基準値以下であるため、同じという考え方は少々乱暴のように感

じる。言い切るためには、実証実験が必要になってくる。これまでの議論を踏まえると、よりコンパクトに効率よく、安くというのが理想であると考えている。住民とこれまで運営協議会等を通してよりよい施設を維持してきた歴史がある。その姿勢を尊重していくべきである。

- ・ **委員長** このあたりで今日の議論は中断したい。決して結論がなかったわけではなく、逆に方向が示されたと考えている。
- ・ **事務局** P.11 の表については、今回規制値を最も厳しい規制値に設定したが、乾式設備も技術革新により、この規制値の土俵に乗ってきた。そこで、発電効率など有利であるため、乾式を採用したいと提案させてもらった。また、実測値については、皆さまに正直に提示する必要があるという考えがあった。25年前に湿式を採用し、現在は湿式であり 1ppm 以下で推移しているが、乾式にすれば 5ppm だとしても数字が上昇する。これを事務局としては、きちんと皆さまに説明する必要があると考えた。本来であれば、乾式・湿式共に規制値以下であり、という評価をしたかったが、事務局としては正直に数字を提示させていただいた。
- ・ **委員長** その点は十分に理解している。感謝している。
- ・ **事務局** 合同勉強会の資料については、別途一読いただきたい。今後の煙突高さ、実証実験を踏まえた白煙防止について、合同勉強会、意見交換会を通して進めていきたい。
- ・ **委員長** 難しい議論であったが、非常に重要な基準ができたと感じている。今後も大胆に進めていきたいと考えているが、一方で市民委員会としてどんな問題に対しても疑問を持って、正確な議論を行ってきたい。決定という結論でなくてもよろしいか。
- ・ **市委員** 構わない。方向は、皆さんに意見を出していただいている。
- ・ **事務局** 9月には、生活環境影響調査に関する話を進めていきたい。多少勉強いただく部分もあるため、作業部会・委員会という形で説明していきたい。
- ・ **委員長** 本日の議論は、区切りを入れながら、具体化していきたいと考えている。
- ・ **事務局** 排ガス処理と煙突高さ・白煙防止は絡んでくる議題であるため、今後少しずつ固めていきたい。

閉会